

ワクチンの効果・有効性

ワクチンというものは、感染症に対する免疫をつけたり、強めたりすることで、感染症の社会での流行、個人の発症や重症化を予防します。

新型コロナワクチンでは、発症や重症化の予防効果が期待されています。

現在承認申請されているワクチンは、新型コロナウイルスが人の細胞に入るためのカギとなる、スパイクタンパク質に対する免疫をつくるものです。

このワクチンについて、海外で、実際にワクチンが入っているかどうかを明かさずに、ワクチンの入った注射をしたグループと、ワクチンが入っていない注射をしたグループを比較したデータがあります。

それによると、ワクチンの入った注射をしたグループで、新型コロナウイルス感染症の症状が出た人の数が、ワクチンが入っていない注射をしたグループより、95%少なかったと報告されています。これを有効率95%と言います。

これは、例えば、「ワクチンを打っていない」1万人のグループで100人が発症した場合、「ワクチンを打った」1万人のグループでは発症者を5人に抑えられるということです。

いつものインフルエンザワクチンの有効率が40~60%と報告されていることを考えると、高い効果とされています。

政府としては、できるだけ早期に、安全で効果的なワクチンを皆さまにお届けできるよう、取り組んでいます。